非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
ゆうちょ口座 00760-0-15689　年会費3000円（全国紙代含む）

2018年2月20日　月刊第235号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1面　核兵器禁止条約と被爆者の願い　―核兵器の終わりの始まりに―　西本多美子
3面　日本の社会保障をめぐる情勢と私たちの課題　横山壽一
4面　放射線被ばくの健康影響　―医療被ばくから福島における甲状腺がん多発まで―　崎山比早子
6面　映画「明日へ―戦争は罪悪である」感想文
映画「標的の島　風かたか」県内縦断上映会
7面　〈エッセー〉国が違っても、同じ人間　中内晃子
〈独標〉桜貝　池田珠子
8面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　竹味恭子

◇講演要旨◇

核兵器禁止条約と被爆者の願い

～核兵器の終わりの始まりに～　西本多美子

石川県原爆被災者友の会
会長　西本多美子さん

今年も宜しくお願いします。まずは昨年、国連で採択された核兵器禁止条約が採択され、続いてICANがノーベル平和賞をもらったことを喜びたいと思います。歴史的な出来事です。

私は広島生まれの広島育ちです。四歳の時、被爆しました。強い光とか上から物が落ちてくるとかの記憶はあるのですが、自分の中に物語としてある訳ではないので、多くの被爆者の体験を読み込み、聴き込んできました。私ですら既に継承者なのです。その意味で日本人であれば、原爆とはどういうものであるのか、**その気になれば誰でも継承者として語ることは可能だと思うのです。まずここが大事です。**

日本被団協と被爆者健康手帳

三年ほど経って相生橋に来てみたら、橋の欄干は全て川の中に落ちていたことを覚えています。旧の広島市民球場の辺りはバラック小屋がずっと建っていて、被爆者や引揚者が抽選で入居できました。私の家族はそこに当選できたので広島に戻ってきたのです。そして私は爆心地から程近い袋町小学校に転校しました。学校にはまだ原爆瓦礫がうず高く積まれていました。子どもたちは明るいのですが、周りは被爆者ばかりなので、肉親の死亡の話などは日常茶飯事でした。

しかし被爆者は一一年間、放置されたままでした。その間に放射能の影響で多くの方が亡くなった時期があります。長崎の山口仙二さんが青年乙女の会をつくって国会議員と掛けあったのもその頃です。そうやって心ある人たちが被災者のために、国の重い扉に挑んでいたのです。そして五六年に日本被団協が結成され、被爆者健康手

花鳥風月

『資本論』第一巻の初版から150年を記念する講演会〝現代に生きる『資本論』〟が学習協主催で開催された。講師は経済研究者・友寄英隆（元『経済』編集長）氏。講演では、かつての手工業時代からの生産原理＝分業とマニュファクチュア＝のような「主観的な分割」（アナログ）から、現代のICT革命に至る機械工業の生産原理は「客観的分割」（デジタル）へ進化していることが説明された▼「一つの歴史的な生産形態の諸矛盾の発展は、その解体と新たな形成との唯一の歴史的な道である。『靴匠は靴型以上に出るなかれ！』という手工業的英知のこの〝究極〟は、時計工ワットが蒸気機関を、理髪師アークライトが経糸織機を、宝石細工職人フルトンが汽船を、発明した瞬間から、恐るべき愚かさとなった」（『資本論』第一部13章9節）の記述が思い浮かぶ▼AIなど誰もが避けて通れない中心課題では、資本主義的生産関係という社会システムが、発展してきた生産技術を使い切れなくなってゆく、いわゆる『桎梏』の時代にあることが具体的に示され、「進化するAI（人工知能）、劣化する資本主義」の指摘には、人間社会における生産様式の歴史的発展という弁証法的な見地が貫かれていた。（こ）

帳の交付等の前進がありました

やがて私も同僚に誘われて原水協の活動をするようになりました。その頃、広島にある七本の川の土手にはバラック小屋がまだ沢山ありました。そこで飼育していた動物の汚水に川魚が群れて寄っていました。そんなスラム街で署名やカンパを募りました。当時のカンパは五〇円でした。毎日のように取り組み、夏になると真っ黒になりました。

署名活動での体験が原点

狭い住まいで共同生活をしている人がいたり、出身地の韓国に帰りたくてもお金がなく、被爆者手帳もない寂しげな方もおいでました。また豚を飼っている韓国の方は、募金をくださったのですがその後、大きな声で「なんで募金なんかするのだ」とその家族の喧嘩が始まったりしたのが聞こえたりしました。また、腰の曲がった小さなお婆さんが汽車賃もなく、手作りの乳母車を押して炎天下を歩いて検診に行くのに心を痛めました。そういう人たちを私は署名活動をとおして見てきたのです。どれだけ大変な思いをしている人が沢山いるのかを知ったのです。底辺の方々が実際には沢山おいでるのです。この体験が私の原点になりました。

愕然としたこと

結婚の相手が転勤族だったので、広島から札幌に転居することになりました。ビックリしたのは札幌で「私は被爆者で…」と話すと「被爆者って何？」と聞かれたことです。病院に被爆者手帳を持って行ったら、「何ですかこれ？」と聞かれるのです。制度のことを説明しても全く取り合ってもらえないのです。広島とのあまりの違いに愕然としました。それで私は被爆者運動に専門的に関わるようになったのです。

認定申請の運動へ

そして七年後に転勤になったのが金沢なのです。ここは難しい土地柄で、一年毎に転居しようと思っていたのですが結局、四〇数年経ってしまいました。石川は被爆者の人数も少ないので一人ひとりの状況がよく分かります。私がここで一番取り組んだのは、原爆症の認定申請の運動です。みんな被爆者だということを隠して生きているので、「認定申請は誰もしない」と人に言われていたのですが、しかし私がアンケートを送ってみると「申請します」との回答が次々に返ってくるのには驚きました。「但し、直ぐに認定されるとは限りませんよ」と一応説明しておくのですが、「それでも構いません。私は国に言いたいのです」という人が何人もいらっしゃるのです。それで一〇数年、国の今のやり方は許せないという思いで、つきっきりで取り組みました。

海外にも被爆者遊説でよく行きました。最初は九一年の被団協結成三五周年特別事業でのアウシュビッツです。アンネ関係も回りました。実際の悲惨な現場をこの目で見ましたが、人間としてよくあんなことができたと思うようなことがキチンと残されている、その凄さに驚きました。国が後世に残すべきと決め、管理しているのです。世界の悲劇と言われる場所に私は若い頃に行ったのです。それから女性団体に招待されてアテネやダブリンへ行ったり、ニューヨークに行ったりしていました。そうこうするうちに国連関連施設でも原爆パネル展ができるようになったりしました。コスタリカの国連平和大学にも原爆パネルを届けました。フィリピンやタイにも届けました。

こんなに嬉しいことはない

私はこんなに早く核兵器禁止条約が採択されるなんて考えていませんでした。それは被爆者の方々が辛い体験を色々な所で広めてくれたその蓄積があるからこそだと思うのです。私は長年、何をしても動かない現実に、**核兵器廃絶は夢だと、半ば諦めかけていたのですが、世界は動き始めると早いものだと本当に驚きました。**こんなに嬉しいことはありません。

しかし残念ながら、被爆国である**日本政府が参加もしないし、署名も批准もしないと開き直っています。これは到底許すことが出来ません。**

そしてＩＣＡＮにノーベル平和賞が授与されたことは、被団協に授与されることよりも喜ぶべきことなのだということも分かりました。**ＩＣＡＮは世界中で核兵器廃絶の運動をしている若い人たち中心の組織で今後の力になる**のですから。

それから昨年、県内の被爆者が名前を語って後世に残せるＤＶＤが完成し、全ての学校や自治体に配付できたことにも喜んでいます。

私たちが長年取り組んできたことが今、このように実りつつあります。ここまで生きてきて本当に良かったという思いで一杯です。

◎一月二三日、金沢市内で開かれた「平和団体・新春のつどい」での講演（放談）要旨です。（文責・編集部）

◇講演要録◇

日本の社会保障をめぐる情勢と私たちの課題

佛教大学教授　横山壽一

対抗軸は憲法を活かすことと説いた横山氏

二月四日（日）、近江町交流プラザで、石川県社保協主催の新春・社会保障講演会が開催された。講演は安倍政権が進める社会保障政策について多岐にわたるものであった。以下、要点を紹介する。

平和的生存権の意味と憲法の可能性

講演は、憲法改正問題から始まった。抵抗を恐れて正面から憲法改正を語らず争点をはぐらかす。安倍政権の恐るべきは「無知」と「無恥」を持ったまま改憲に突き進もうとしていることであり、国会でも、きわめて無責任で不正確な答弁を繰り返している。

その中で、社会保障・福祉に関わる者として、**「平和が壊される時は福祉が壊される時、福祉が壊される時は平和が壊される時」**ということを、歴史の経験・教訓として考えていく必要がある。安保法制以降のJアラートを用いた訓練など戦時体制準備とも言える状況、「国難」対応という名の下で、社会保障が解体されている。さらに、一億総活躍社会と地域共生社会論に結び付け、地域に国民を総動員させ、相互に監視を強めていく側面も持つ。平和と社会保障が一体的に破壊されている。これに対して、**九条と二五条を一体のものとして捉え、平和的生存権の意味を改めて説いていく必要がある。**

また、二五条を蔑ろにする改革が進められ、特に医療費については、「地域差」を重視した削減策に取り組む中で、地域の実情や特性には十分な配慮がされていない問題もある。対抗していく中では、憲法を変えさせないということだけではなく、憲法の持つ可能性をイキイキと語ることも重要である。憲法が、これまで私たちの生活をどれだけ豊かにしてきたか、そして、これからも豊かにしてくれる限りない可能性を持っていること。それと同時に、現在の窮状が、どれだけ二五条を蔑ろにしてきた結果であるかということを伝えていく必要があると語られた。

安倍社会保障改革の構図と手法

社会保障改革プログラム法（二〇一二年）と経済・財政一体改革（二〇一六年～）を軸に議論が行われており、自助・共助を基本として市場の責任を社会保障に押し付け、削減が図られている。

具体的には、①地域医療構想、地域医療計画、国民健康保険の都道府県化など各計画を連動した施策の推進、②データベースを活用した〝見える化〟と目標設定による地域差の適正化、③企業と連携した、予防・健康づくりの徹底と自己責任論の重視、その補強策として公的・保険サービスを使わせない状況づくりとインセンティブ改革の推進、④診療報酬・介護報酬等の報酬設定による誘導、⑤全世代型社会保障への転換と称した高齢者世代切り捨て策の推進、⑥地域共生社会を用いた地域・住民への丸投げ政策、⑦生活保護・ナショナルミニマムの破壊による最低保障の破壊、など主にこれら七つの手法が並行して進められていることに注意する必要がある（各項目の詳細については紙面の都合で割愛）。

特に重要な点は、住民として、どう立ち向かうか。⑥に示した安倍政権の地域共生社会論への対抗策としては、社会福祉の基本に立ち戻ること、社会福祉事業の意義をアピールすることが大切となる。特に、住民の自主的な活動を広げ、地域の問題・課題を発見して、その解決を積極的に行政に迫る運動をつくりだすこと。地域課題解決を住民等に全面的に肩代わりさせる体制づくり、地域および地域福祉の大規模な再編、それにとどまらず医療・介護・住まい等の社会保障全体について「住民主体」に再編していくことこそが正しい「地域包括ケアシステム」をつくることとなる。

社会保障改革への対抗軸

安倍社会保障改革への対抗軸をつくる上で、「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名（3000万人署名）」などの活動が持つ意義は大きい。

九条を語るなかでは「二五条を語り、平和と福祉が一体であるということを対話の中で広げる必要も忘れてはならない。同時に、一三条（幸福追求権）の持つ大きな可能性、二四条（家庭における個人の尊重と両性の本質的平等）の意義を訴えていくことも大切だ。そして、消費税増税の誤り、企業優遇税制のゆがみの問題など、社会保障財源論についても、ひるまず積極的に攻勢に打って出ることが大切となる」と投げかけられた。

最後に、ジム・ロジャーズが「週刊現代一二月一三日号」で語っている「アベノミクスは、将来日本経済を破綻させる、それを防ぐ解決法は安倍政権を退陣させること」という言葉を紹介して講演を閉じた。

（大田健志／医療・福祉問題研究会会員）

◇講演要旨◇

放射線被ばくの健康影響
―医療被ばくから福島における甲状腺がん多発まで―

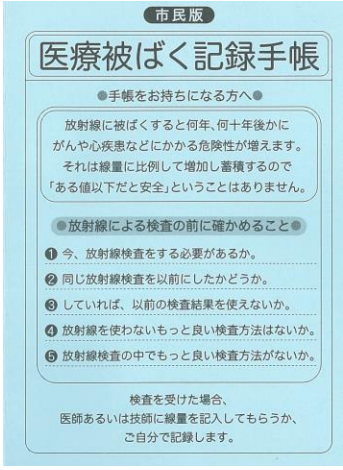
三・一一甲状腺がん子ども基金代表理事　崎山比早子

講師の崎山比早子さん

崎山氏は、東京に生まれ、千葉大学医学部を卒業、大学院に進んだ後、マサチューセッツ工科大学に留学。放射線医学総合研究所主任研究官を経て、高木学校および原子力教育を考える会のメンバーとなられた方で、がんの細胞生物学がご専門です。講演は、医療被ばく・被ばくの基礎知識、低線量被ばく、福島における甲状腺がん多発と三・一一甲状腺がん子ども基金、二〇mSv帰還政策、そしてがん検診まで、幅広いものでした。以下に、講演の概要を紹介します。

医療被ばくの現状と防護（正当化、最適化）

医療被ばくについては、まず日本のCT装置の多さに言及されました。日本には、全世界のCT装置の三分の一があると言われており、百万人あたりで一〇七、一二台（二〇一四年現在）、これはアメリカの約二・五倍、ドイツの約三倍、イギリスの約一三倍です。また、七五才までの全発がん数のうち、診断用X線による発がん数の割合も日本が三・二％（七、五八七人）で世界一位となっています。職業被ばくが最も多いのは医療従事者で、職業被ばくには線量限度（一年間につき五〇mSv、五年間で一〇〇mSvを超えてはならない）が定められていますが、患者さんには、「限度を決めてしまうと必要な検査や治療が受けられなくなるから」という理由で線量限度の規定がありません。CTを使用する際に大切な条件は、利益がリスクを上回っていることであり、なるべく低い線量で良い画質を得て、必要以上の鮮明さは求めずに最適化を図ることです。そして、患者さん自身も、証拠に基づいて利益とリスクに納得してからCT検査を受けることが大切で、患者さん一人一人が「医療被ばく記録手帳」（高木学校発行。写真参照）を持って、自分が浴びた線量を知ることから始めよう、と呼びかけました。



被ばくのリスクを理解するための基礎知識

私たちの身体は、成人で六〇兆個の細胞からできており、各細胞の中には核とDNAが存在しています。

DNAは細胞および体の設計図という重要な役割を担っていますが、放射線はこのDNAを傷つけます。傷の数は線量に比例して増加します。

放射線量の単位Gyは、「一kgの物体が一ジュールのエネルギーを吸収すること」であり、X線で一mGy被曝するということは、各細胞の核に平均して一本の飛跡が通ることを意味します。

DNAの二重らせんは、一本の鎖が切断されるだけならば正しく修正されやすい。しかし、放射線によるDNA損傷は二本の鎖ともに切断されることが多くなり、修復不能でアポトーシスを起こしたりする。この誤った修復は、変異を引き起こし、蓄積するとがんを発生することもあり、放射線の危険性が蓄積することを危惧されました。

一〇〇mSv以下は発がんリスクを検出できない？

国側の放射線専門家は、「放射線検査による健康影響、特にCT検査による影響については、一〇〇mSv以下の低線量の場合、放射線の発がんリスクは実証されていない。発がん率の増加はあったとしても小さく、自然の発がんの地域差や人種差の中に埋もれて疫学的に証明するのは困難」と主張しています。

しかし、米国国立衛生研究所のウェブサイトには、「放射線には、がんのリスクがゼロで安全であるという線量は存在しないという合意が国際的に成り立っている」と書かれています。

ＣＴ検査による線量依存性白血病と脳腫瘍リスクについて、骨髄線量が多くなれば白血病が増え、頭部線量が多くなれば脳腫瘍も増加します。

オーストラリアにおける青少年のＣＴ検査と発がんの研究では、一九才以下ＣＴ被験者六八万二一一人のうち三一五〇人が発がんし、非被験者と比較して二四％も発がん率が上昇したのです。このように一〇〇mSv以下でも発がん率が増加するという報告も多いのですが、「国際的に」認知されていない、として評価をしない「いわゆる専門家」が多いのです。

福島における甲状腺がん多発と三・一一甲状腺がん子ども基金設立の意義

福島県民健康調査甲状腺検査において、一巡目検査（二〇一一年～二〇一六年）一一六人、二巡目検査（二〇一四年～二〇一七年）七一人、三巡目検査（二〇一七年～現在進行中）では二〇一七年六月までに七人、計一九四人が悪性ないし悪性疑いとされ、手術によってがんと確定された人は一五四人となっています（二〇一七年一一月末時点）。しかし、県民健康調査検討委員会（検討委員会）が二〇一六年三月に発表した「中間取りまとめ」では、一巡目検査の結果をもとに放射線の影響とは考えにくいとして、過剰判断の可能性を指摘しました。福島県立医大で一二五例の手術を担当した鈴木眞一医師は、二〇一六年九月に開催された国際専門家会議で、「リンパ節転移が七七・六％、甲状腺外浸潤三九・二％もあったことを考えると過剰診断とは言えないが、スクリーニング効果である」と述べています。しかし、スクリーニング効果では二巡目、三巡目の発がんを説明できません。

三・一一甲状腺がん子ども基金は二〇一六年七月に設立されました。事故当時一八才以下で放射線プルームが通過した一都一五県に居住しており、二五才以下で甲状腺がんと診断されたか治療を受けた人たちを支給対象としており、二〇一七年九月発表では計一〇〇人に給付されています。

この事業により、事故当時四才だった児童の発症が発覚したのです。この症例は二〇一六年前半に福島県立医大で手術が行われましたが、「経過観察」というルートに入れられたことで検討委員会に報告されていませんでした。これまでに経過観察に入った二、九一七人で、この中にがんを発症した人が何人いたのかはまったく分からず、検討委員会に報告される発がん数が実情を反映していないことを意味しています。

基金による受給者アンケート調査では、八一家族から七七人の回答（回答率九五％）が寄せられ、いままで伝わってこなかった患者さんやご家族の声が届きました。結婚、学業、就職、治療費、出産、経済・生活面、生命保険、差別、部活や入試など諸々の不安を抱えている人が多く、甲状腺がんそのものの原因を知りたいという声が最も多かったそうです。

二〇mSv帰還政策と子どもの放射線感受性

「年間二〇mSv」という避難指示解除の基準は、ＩＣＲＰ（国際放射線防護委員会）による勧告や、原子炉等規制法など日本の国内法令による公衆の年間被ばく線量限度（一mSv）と比べてあまりに高く、解除の要件と認めるのは大問題です。ましてや子どもは成人に比べて放射線感受性が高いので、この基準で子どもを帰還させることにはとても納得できません。

ところが、「良識ある専門家」と称している人たちは、「個人の線量や影響に関する情報を知る・知らされることは、当人や家族の精神的負担になりうることを認識し、検査にあたっては現場での丁寧な説明を徹底するとともに過剰診断や知らない権利への配慮に関して医療倫理面からの議論を深める。低線量被ばくの危険を唱えることが、今こそ推進すべき福島の復興を阻害する不幸な事態である」と主張しています。子どもの健康よりも福島の復興を優先させるという姿勢は、専門家として恥だといえます。

がん検診で死亡率は減るか？

日本政府は、がん検診受診率の向上政策をとっているが、都道府県別に見た肺がん、胃がん、乳がんの検診受診率とがん死亡率には一切の相関がなく、がん検診の有効性は証明されていません。むしろ、これらの検診には放射線が使われており、発がんリスクが心配されるのです。

最後に、「現状を変えていくためには、個人個人が判断力を付けてゆくことが大事」という言葉で締めくくられました。

（公立松任石川中央病院・小児外科　大浜和憲）

◎昨年一一月一九日、ホテル金沢で開催された石川県保険医協会の「第一四回原発・いのち・みらいシリーズ」講演会の講演要旨です。

非核・平和のひろば

映画「明日へ―戦争は罪悪である」能美・金沢上映会 感想文

映画「明日へ―戦争は罪悪である」の県内上映会が、一一月一〇日津幡町から一月二九日輪島市まで計一三会場で開かれ、約一四〇〇人の参加者がありました。

映画のタイトル「戦争は罪悪である」にあるように、戦争には人を殺すという罪悪とともに、人の心も変えてしまうという罪悪があることをこの映画は描いています。

いま安倍政権は憲法九条を変えて、戦争に向う国づくりを進めており、先の大戦のもとに〝戦争は罪悪である〟の反省に立ってつくられた平和憲法を変えようとしている折、一人一人が考え、行動することの大切さを学ぶことができる映画です。

一月二七日能美上映会、二八日金沢上映会の感想文を紹介します。

・・・・・・・・・・・・・・・

◎浄土真宗本派の僧侶です。毎年八月に戦没者追悼法要を行います。ひとことと述べるように心がけていますが、私自身戦争のことを知りません。私の親も貧しかった記憶しかない世代です。新聞をみて今日はぜひと思い寄せていただきました。

◎間違いなく現憲法は先の戦争の反省から生まれたもの。このかけがえのない地球や人間と同じ尊いものだと思います。日本人がこの現憲法を守ることで世界平和がかたつむりのようにゆっくりでも進んでいくことを信じ、人の自由や権利が侵されるような時は、おかしい！と声をあげていきたいです。

◎戦争が国民一人一人の生活に影響し、そしてまた国民一人一人の良心を問うものであることを、改めて実感しました。つらい選択をしなくてならなくなる前に今のうちに正しい選択と行動をしたいものです。

◎今日的な課題を深く考えるためにふさわしい映画でした。真に心に浸みる脚本、映像であり、心に迫る多くのことを学びました。中原丈雄さんの演技は迫力ある名演技でした。明日へ、私もまた勇気をもらいました。

映画「標的の島―風かたか」県内縦断上映会のご案内

「標的の村」「戦場ぬ止み」の三上智恵監督の最新作、「標的の島―風かたか」の県内縦断上映会が下記のように計画されています。

辺野古・高江・宮古・石垣―島々を〝風よけ〟にしようとするのは誰なのか？　その叫びを黙殺したとき、次なる「標的」となるのは私たちの住む土地かもしれない。その恐るべき未来図と、それをくいとめようとする人々の闘いを描いたドキュメンタリーです。

映画「標的の島　風かたか」県内上映計画

No.	日程	曜日	上映時間	会　場	開催地区	備考欄
1	3月23日	金	18:00	ラポルト珠洲	珠洲市	
2	3月24日	土	14:00	石川県教育会館3階ホール	金沢市	三上智恵監督・講演
3	3月25日	日	10:00	内灘町役場町民ホール	内灘・津幡	三上智恵監督・挨拶
4	3月25日	日	10:00	白山市・松任学習センター	白山市	
5	3月25日	日	14:00	七尾労働福祉会館	七尾市	三上智恵監督・挨拶
6	3月25日	日	19:00	浄専寺	かほく市	入場無料・会場カンパ
7	3月28日	水	18:00	輪島市文化会館	輪島市	
8	3月31日	土	14:00	アビオシティ加賀	加賀市	
9	3月31日	土	19:00	常讃寺	野々市市	
10	4月1日	日	14:00	羽咋労働会館	羽咋市	
＜注＞小松、能美地区は6月で調整中						（入場料　1,000円）

非核石川の会リレーエッセー

国が違っても、同じ人間

中内　晃子

我が家では、先日までペルーの男の子が暮らしていました。一年間、高校生として学校生活や日本の暮らしを体験しました。その間、我が家の長女は、コスタリカで高校生活を送ってきました。

軍隊のない国の国連大使で、核兵器禁止条約の交渉会議で議長を務めたホワイトさんの国。大人たちはそんな国の様子が知りたくて知りたくて、なのですが、それはちょっと置いておいて。

人と人との距離が近くて毎日が楽しそう。豊かな自然があるけど、貧しさも垣間見える。そんなコスタリカでの話を聞いていると、日本の子どもたちが、小さい時から〝良い子〟であることをとても求められているように感じます。お勉強もよくでき、お行儀の良い日本の子どもたち。なんとなく息苦しいなーと思ってしまいます。一人ひとりが幸せに生きていっていいんだよ、という憲法を持つ国なのに。

長女が小学校に入った年から、チリ、フランス、アメリカ、タイ、ペルーからの留学生が年間で、そして、台湾、コスタリカ、インドネシア、インド、ブルネイ、グアテマラ、フィンランド、オランダからの留学生が一週間前後、暮らしていきました。

様々な人と過ごしてきて思うことは、国が違っても、同じ人間。楽しいこと、いいこともあれば、嫌なこと、困ることもあります。誰かと一緒に暮らしていくって、そういうこと。違いを感じながら、お互いを尊重しあって、ともに生きているのだと思います。家庭でも、地域社会でも、国と国との関係の中でも。

一人ひとりが声を上げること、そして他の人たちの声を聞くこと。それを大切にしていくことが、平和な世界を作っていく一歩です。なかなか難しいこともあるけど、そうできる大人でありたいなと思います。

詩人会議かなざわ「独標」より

桜貝

池田　珠子

悪天候が続いて
やっとおさまった　ある日
高波と強風にあおられ
浜辺に流れ着いた
桜貝
広大な海は
いのちの　源
海の青に空の色が滲んで
水平線がかすんでしまっても
本来の「あお」の境目は消えることはない
時折
海面に浮かびあがる背景が
所在なく揺れ　捻じれ
目眩がしそうです
それは魔法でも小説でもない
幾つかの条件が重なって現れる
蜃気楼
最近　あちこちに発生する
そのメカニズムを尋ねた

研究の記録を紐解いても
適正な資料がなく
すべて非公開
「証拠も記憶もありません」
学者はロボットのように繰り返す

今　社会全体が崩れかけている
哀しいエゴが絡んだ
不思議な掟
温暖化対策だけでなく
美しい自然を守るために
―ありのままを　お伝えします
流されず　砂に埋もれず
潰されないで
喘ぎながら辿り着いた
まっすぐな桜貝の
意思

《編集室より》

◎辺野古新基地建設の是非が問われた名護市長選挙は、争点をそらし、諦観を助長し、前回自主投票だった勢力が政権側についたことで、残念ながら敗北となった。驚くべきは早速、政府が名護市に新たな補助金を交付する検討に入ったことだ。前市長には交付せず、手の平を返して新市長には交付し、地域振興を支援して新基地建設に理解を求める方針だという。カネで民意を踏みにじる悪代官の時代がまだ続く。しかしその元手は国民の税金だ。（な）

◎県民の安全と安心を大切にすることが知事の役目と「原発ＮＯ！」「多選ストップ」を掲げて新知事を誕生させる会が結成され、小倉恵美さんが立候補する。決意表明で「県民の声が生きる県政でこそ、若者たちや子どもたちの未来が豊かで平和な豊かな社会が実現できる」と述べている。あたらしい知事とともに、あたらしい県政をつくろう。（か）

シリーズ 石川の地域点描 ⑱

フォトグラファー　中西　優

北陸を歴史的な寒波が襲い、大雪の被害が各地で出ています。これだけの大雪だと撮影には出られません。カメラマンにとっても本当に困ったものです。

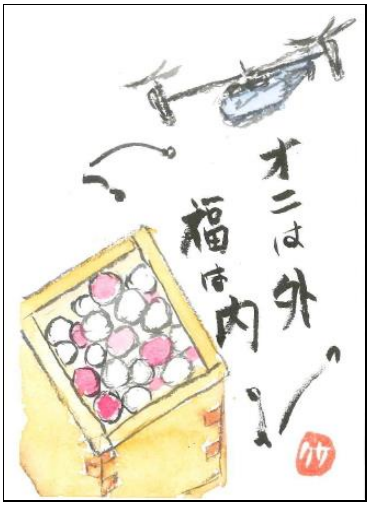
そんな貴重なシャッターチャンスをもたらしてくれた太陽に感謝しながら夢中でシャッターを切りました。

（写真説明）雪原にたたずむメタセコイア並木＝河北潟

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

竹味　恭子



非核平和の掲示板

	日	曜	時	内　　容	場　　所
2	22	木		石川県知事選挙告示　3月11日投票	
	24	土	15:00	医療・福祉問題研究会例会 「母子世帯の子育ての困難について」 村上慎司さん	金沢市高岡町・金沢市松ヶ枝福祉館 4階集会室
	24	土	17:00	15年戦争と日本の医学医療研究会北陸支部 第7回研究会 記念講演「旧731部隊本部遁走の経過」 莇　昭三さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階第2研修室
	25	日	14:00	子どもと教育を考えるつどい 「安倍『教育再生』政策は子どもたちをどこへ導くのか　俵　義文さん	加賀市JR加賀温泉駅前・アビオシティ加賀 2階研修室
	25	日	14:00	石川県原水協総会	金沢市御経塚・石川学習会館
	27日（火）～3/1（木）			3・1ビキニデー	静岡県焼津市／静岡市
3	7	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念講演 教育会館前口
	8	木		国際婦人デー	
	9	金	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	10	土	14:00	福島原発事故から7年・福島原発被災者支援 ー原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める3・10行動ー	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園中央口
	10	土	18:00	石川県保険医協会総会記念講演 「憲法の創造力ー今こそ憲法を語る」 木村草太さん	金沢市三社町・石川県女性センター　ホール
	11	日		石川県知事選挙投票日	
	11	日		フクシマの日	
	17	土	14:30	高野孟氏講演会「20年後の日本のために」	小松市土居原町・こまつ芸術劇場うらら
	25	日	9:41	能登半島 M6・9地震　11周年（2007年）	
	31	土	14:00	映画「憲法を武器として　恵庭事件」上映会　（2回目：18：00～） 内藤功弁護士のお話（16：40～）	金沢市広坂・金沢21世紀美術館シアターホール
	31	土	14:00	柳田邦男講演会 「検証・福島で起きたこと・起きていること・そしてこれから」	かほく市学園台1丁目・石川県立看護大学講堂
8	4日（土）～6日（月）			原水爆禁止世界大会／広島大会	広島県広島市

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー

非核の政府を求める石川の会にあなたもご参加ください。本会会報「非核・いしかわ」年間購読料 1,500 円